

幸から離れ去るところで、サロマ湖の水が海
に印かっし流れ去っていく。

このあたりにかざって立つ表在的な三角波の
（集団の）動で想像された。彼等は後か

後からと薩湖を逃れ去、左手に退いて寄せ
いる方おーつク海の波を押し、

のところに苔みこまれえ湧えて

えた。と水はいかにも静かだ規則的であつ
か、人気のない早調を祝歌のなかで見てい

と、やはり抗し難い自然の力の凄じさびれの
胸を打った。

「逃げた行くし、と彼は思った。

気のせいだが、自分の妻がで解散されて行く
ようにも思えた。嘘でもその方が気持ちよかつ
た。

夢多多翻 欣求浄土

藤枝静男



藤枝市文学館企画展

藤枝静男 文学展 ~ 欣求浄土の世界 ~

写真・原稿：浜松文芸館所蔵

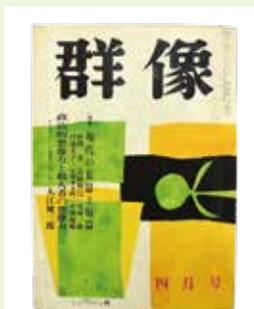
平成30年6月16日(土)~7月29日(日) 藤枝市郷土博物館・文学館

静岡県藤枝市若王子500(蓮華寺池公園内) TEL 054(645)1100 FAX 054(644)8514 E-Mail muse@city.fujieda.shizuoka.jp 藤枝市郷土博物館・文学館 検索

休館日▶月曜日(7月16日を除く)・7月17日(火) 開館時間▶午前9時~午後5時 入館料▶大人〔一般〕200円、〔団体20名以上〕160円、中学生以下及び障害者手帳等をご提示の方と介助者は無料

藤枝生まれで戦後に活躍した作家・藤枝静男(1908-1993)は、眼科医師としての視線を取り入れつつ、幻想的な文学世界を構築した私小説家として知られています。本展では、その藤枝文学のうちでも晩年の代表作とされる『欣求浄土(ごんぐじょうど)』を取り上げます。『欣求浄土』は、表題作の「欣求浄土」のほか、「厭離穢土(えんりえど)」「一家団欒(いっかだんらん)」などの短篇7作品から成り立っており、晩年の藤枝静男の自然観や死生観が円熟した筆致で描写されています。

「欣求浄土」が今年で発表から50年となることを記念して、自筆原稿や写真など、ゆかりの資料で藤枝静男の作品世界を紹介します。



『群像』昭和43年(1963)4月号



『欣求浄土』



「欣求浄土」自筆原稿
(浜松文芸館所蔵)



「欣求浄土」に登場するサロマ湖
(北海道常呂郡佐呂間町提供)

藤枝市文学館企画展 藤枝静男文学展

欣求浄土の世界

藤枝静男
(1908-1993)



本名は勝見次郎。藤枝町市部(現在の藤枝市本町)に勝見薬局の次男として生まれ、小学校を卒業するまで藤枝で過ごした。旧制第八高等学校(現・名古屋大学)時代に志賀直哉に出会い終生師弟関係が続けた。その後千葉医科大学(現・千葉大学)を卒業し浜松で眼科医となったが、旧制第八高等学校の同級生、本多秋五や平野謙に小説執筆を勧められ、39歳の遅咲きにして処女作「路」を発表する。やがて確固たる新しい私小説世界を構築し注目され、野間文芸賞など数々の文学賞を受賞した。代表作に『欣求浄土』『悲しいだけ』『田紳有楽』など。

会期中のイベント

体験学習室

「なつかしのおもちゃづくり」

とんとん相撲やわりばしてっぽうなど
なつかしいおもちゃを作ってみませんか？

受付時間 平成30年6月9日 土 ~ 7月22日 日
午前9時~11時、午後1時~3時

場 所 文学館2階 体験学習室

体験料 わりばしてっぽう…100円
とんとん相撲………200円

対 象 小学校3年生以上(小2以下は保護者同伴)

とんとん相撲 [50個限定]

わりばしてっぽう

所要時間の
目安: 60分



所要時間の
目安: 60分



ミュージアムコンサート

ギターやマンドリンの楽しいミュージアム
コンサートに参加してみませんか？

季節にちなんだ楽しい音楽をお届けします♪

受付時間 平成30年7月22日 日 午後2時~

場 所 文学館講座学習室

定 員 60人(先着順) ※申込不要、直接会場へ

入館料 200円、中学生以下無料

曲 目 太陽がいっぱい、夏の思い出、
ニューシネマパラダイスなど

出 演 志太マンドリン・ギターアンサンブル

